
投資家教育国際フォーラム(IFIE)及び証券監督者国際機構(IOSCO)による 投資家教育国際カンファレンスの模様について

日証協・平成 28 年 6 月 13 日～14 日

投資家教育国際フォーラム(IFIE)及び証券監督者国際機構(IOSCO)の共催による投資家教育国際カンファレンスが、6月13日～14日にトルコのイスタンブールにおいて開催された。

○ 会議の概要（プログラム詳細は別添参照）

- ・本カンファレンスは、FC/IE¹を担う各国・地域の民間、政府等関係機関が連携して世界の投資者教育プログラムの水準を向上させること等を目的に開催され、約 80 名が参加した。
- ・今回のカンファレンスでは、金融のデジタルイゼーションを始めとする Fintech の進展、金融商品・取引の多様化・複雑化、グローバルレベルでの高齢化社会の到来など投資者を取り巻く環境が大きく変化する中、「Meeting Needs and Bridging Gaps」(ニーズを捉えてギャップに橋を架ける)をメインテーマに掲げ、投資教育の分野においても加速する環境の変化に柔軟に対応していくため、投資教育分野におけるエコシステムの確立、行動経済学の活用や投資教育の効果向上など、様々なテーマから専門家の議論、知見・情報の共有が行われた。
- ・本カンファレンスの前日(12日)には、IFIEの年次総会が開かれ、役員選挙、各地域支部の活動報告等が行われた。新会長にはトルコFP協会(FPD)の Alparslan Budak 氏が、新副会長には日本証券業協会の宮原史明国際部長が選任された。

1. 6月13日(月)(1日目)

(1) 歓迎挨拶

会議の冒頭に、主催団体である IFIE 会長 Alparslan Budak 氏は、「今回のカンファレンスでは、「Meeting Needs and Bridging Gaps」(ニーズを捉えてギャップに橋を架ける)をメインテーマに掲げており、その実現に近づけるため、多様な専門家が集まり知見や情報を共有する機会を提供したい。」と述べ、本会議の意義について触れた。

IFIE とともに主催団体である IOSCO の事務局長(前 IFIE 会長) Paul P. Andrews 氏は「投資者教育を効果的、効率的に推進していくための“エコシステム”を構築することが重要であり、本カンファレンスを通じて IFIE、IOSCO 及び OECD から 3 機関の代表者が集まり新しい考え方を模索する取組みは非常に重要である。」と述べた。

その後、招聘機関であるトルコ資本市場協会(TCMA)会長 İlhami Koç 氏及びトルコ資本市場委員会(CMB)委員長 Vahdettin Ertaş 氏から、それぞれ参加者に対し歓迎の言葉が述べられた。



¹ FC (Financial Capability: 金融ケイパビリティ)、IE (Investor Engagement: 投資家エンゲージメント)

(2) クイックスタート: FC/IE の実施におけるアイデア、トレンド及び最新のトピックス

カンファレンス全体の導入として、以下のスピーカーによって FC/IE に関する各機関における最新の検討状況や活動事例等が紹介された。

- Miles Larbey, オーストラリア証券投資委員会(ASIC); IOSCO C8 副議長
テーマ: IOSCO 第 8 常設委員会(C8)の投資リスク教育に関するレポートの概要
- Khairul Ridzwan Abdul Kuddus, マレーシア証券委員会
テーマ: イスラム金融に関する FC/IE への取組み
- Gerri Walsh, 米国金融取引業規制機構(FINRA); FINRA 財団
テーマ: 持続的なプログラム・パートナーシップのためのリソース確保に向けた取組み
- Robert Stammers, CFA 協会(グローバル)
テーマ: FC/IE への取組みにおけるソーシャルメディアの戦略的活用と最新情報
- Daniel Pfannemuller, BM&F Bovespa 取引所(ブラジル)
テーマ: 教育/トレーニングの一層の推進に向けた MOOCs(オンライン教育サービス)の活用
- 石倉宏一 日本証券業協会執行役
テーマ: 日本の高齢化社会における FC/IE の課題と機会

(3) パート I - 変化する経済とマーケットダイナミクスにおける FC/IE エコシステム

FC/IE のエコシステムのあり方、その中で公的部門の果たす役割等について、主に以下のような内容が議論された。

- ブラジル証券取引委員会(CVM)の Leonardo Gomes Pereira 氏は、ブラジルでは、投資者のより良い投資意思決定のために当局、自主規制機関、取引所が連携を深めているが、まだ取組みの余地は大きい。Fintech イノベーションなど、変化の速い分野の状況を遅れずに把握し、それぞれの専門分野でより効率的、効果的な取組みを進めていきたいと述べた。また、元々証券規制当局は、市場が耐性・柔軟性を高め、投資者が市場を信頼できるようにする役割を担っており、公的部門による投資教育もその役割の延長線上に位置付けられるのではないかと述べた。
- インドネシア金融庁(FSA)の Kusumaningtuti Soetiono 氏は、インドネシアにおいて、公的部門の役割は主要なストラテジーを定め、持続可能なプログラムをマッピングし、タイムスケジュールを策定することだと考える。民間部門の役割は、地域に根付いて柔軟にニーズをくみ取りながら、プログラムの実行に協力することではないかと述べた。

(4) パート II - 変化する経済とマーケットダイナミクスにおける FC/IE エコシステム

経済の変化とそれに伴い市場がダイナミックな変貌を遂げる中、FC/IE のエコシステムにおける公的・民間部門のあり方について、主に以下のような内容が議論された。

- BM&F Bovespa 取引所(ブラジル)の Daniel Phannemuller 氏は、FC/IE のエコシステムにおいて、ジャーナリストも投資者に大きな影響を与える存在であることから、BM&F Bovespa 取引所では、ジャーナリスト向けの MBA プログラムに対して教育コンテンツを提供していることを紹介した。
- Autorité des marchés financiers(カナダ・ケベック)の Camille Beaudoin 氏は、カナダ ケベックの証券規制当局では、投資者に対して直接働きかける以外に、投資者に接するフロントラインの人々を教育する必要性を感じており、金融アドバイザー向けの無料ウェビナーを提供していることを紹介した。

・FP スタンダードズボード(グローバル)の Noel Maye 氏は、FP スタンダードズボードの調査では、資産形成において消費者は常に意思決定のプレッシャーにさらされており、金融のプロよりも友人や家族など身近なところから情報やアドバイスを得るケースも多く、そうした者も含めたエコシステム全体の底上げの必要性を感じていると述べた。また、個人がそれぞれの金融ゴールに到達するためには、投資者教育だけでなく金融ケイパビリティの向上が重要であり、投資者である前に消費者として、ゴールベースアプローチの金融プランを持つべきであるとの意見を示した。

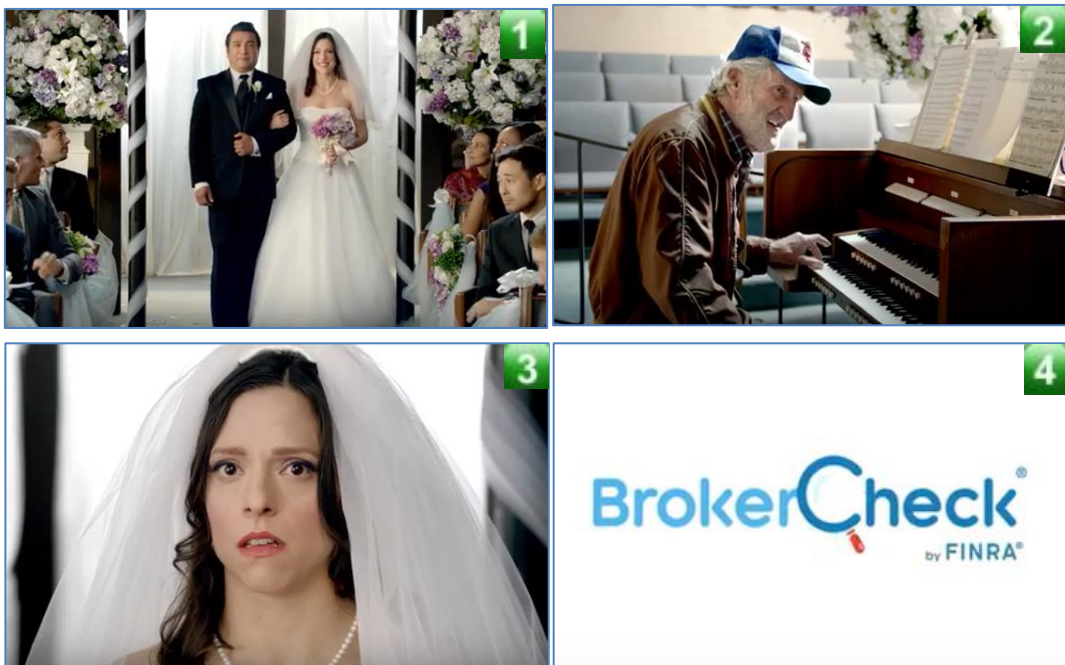
(5) 多面的ケーススタディ

オンブズマンプログラム・紛争処理制度と FC/IE 事業との関係、今後の連携のあり方等について、主に以下のような内容が議論された。

- ・チャネル諸島金融オンブズマン(CIFO)の Douglas Melville 氏は、FDR (Financial Dispute Resolution) は、裁判制度によらず顧客と金融機関の紛争を解決するための代替手段であり、紛争解決にかかる双方のコストを下げ、市場に対する投資者の信頼を確保するためのフレームワークの一つと位置付けられ、FDR の FC/IE への示唆として、こうした制度の存在を投資者に認識してもらい、市場の信頼に繋げることがあるとの意見を示した。
- ・The Securities Industry Dispute Resolution Center (マレーシア)の Sujatha Sekhar Naik 氏は、FDR の FC/IE への示唆として、投資者の主張が受け入れられなかったケース(自己責任によるリスクの取り過ぎ等)を分析し、今後の投資者教育に役立てていくことも考えられると述べた。

(6) マルチメディア・ショーケース

参加機関から事前に募集した金融リテラシー・投資者教育に関するテレビ CM 等の動画が紹介された。



※米 FINRA の紹介動画：身近な事例として、結婚式のオルガニストを委託前にきちんとチェックしておく必要があることを引き合いに、同機構のブローカーチェックの利用を呼び掛ける。
(https://www.youtube.com/watch?v=T-VLL_6WrIg)

2. 6月14日(火)(2日目)

(7) 技能・専門性向上ワークショップ - メディアトレーニング

金融・投資者教育における様々なメディアの活用について、主に以下のような内容が紹介された。

・FleishmanHillard 香港の Patrick Yu 氏は、昨今では、メディアに対して発信したコメントがウェブサイト上に半永久に残るようになり、メディア対応にはより一層慎重さが求められるようになってきている。一方で、メディアに発信する内容に伝播力を持たせるためには、受け手の興味・関心事(明確な対立軸、タイムリー性等)を満たす必要がある旨を解説した。また、組織として情報を発信する場合には、他の部門から発せられる情報等との整合性、裏付けとなるエビデンスを確保しながら、キーメッセージを明確にすべきである。また、ライブ中継のインタビューの場合には、想定外の質問にも丁寧に対応し、話にブリッジを架けながら伝えたいポイントまで持っていくことが望ましいと述べた。

(8) 行動経済学の研究と実践ラウンドテーブル

行動経済学を応用した投資者への効果的なアプローチ方法について、主に以下のような内容が議論された。

- ・ブラジル証券取引委員会 (CVM); IOSCO C8 議長の Jose Alexandre Vasco 氏は、ブラジル CVM では、2014 年に行動経済学の投資教育への応用に関するカンファレンスを開催し、心理学者、脳科学者を交えたパネルディスカッションなどを行った。金融商品の選択肢や複雑性が増す昨今、証券規制当局として、従来の伝統的な手法だけでなくより投資者の理解の向上や適切な行動を促すための方策を模索していると述べた。
- ・Bogazici University; Risk Software Technology (トルコ) の Burak Saltoglu 氏は、トルコの投資者の行動の特徴として、貯蓄に回さず消費してしまうこと、保有する資産の多様性・分散性が少ないことなどが挙げられる。また、この傾向は国民各層を通じてあまり変化がなく、どのように人々のマインドセットを変えていくかが課題となっている。ロボアドバイザーの普及は、本問題に有効に対処する一助となり得るとの意見を示した。
- ・オランダ財務省; OECD Long-term Savings and Investment 専門家サブグループ共同議長の Olaf Simonse 氏は、電子マネーや仮想通貨の普及により、お金は従来以上に“非可視化”されつつあり、それが人々に安易な消費を促し、必要な貯蓄が妨げられる要因となっている。目に見えないお金に対し、いかに自己責任を持った金融行動を育てていくかは OECD レベルでも重要な政策課題となっていると述べた。

(9) 問題解決ワークショップとグループ討議

以下の 6 つのテーマに分かれて、各参加者の経験やそれぞれの国での事例に基づいた意見交換を行った。

- ① 高齢投資者の脆弱性理解及び高齢者保護のベストプラクティス
- ② 新たな Fintech の可能性及び FC/IE 事業への示唆
- ③ FC/IE プログラムのための情報収集・利用のためのシステム開発
- ④ 軍人及びその家族、並びに若年層への関与拡大のためのベストプラクティス等
- ⑤ 持続可能な FC/IE リーダーシップの構築(トラブルシューティングと問題解決)
- ⑥ メディアトレーニングとその実践

(10) FC/IE の取組みに対する価値評価・投資効果

FC/IE の取組みに対する価値評価・投資効果について、主に以下のような内容が議論された。

- ・トルコ資本市場協会 (TCMA) の Attila Köksal 氏は、トルコの国内には数多くの公的・私的な投資者教育実施機関が存在しているが、いずれも横断的な連携が図れていない。今後 FC/IE の実施効果を高めていくためには、これらの機関の役割と活動を適切にコーディネートしていく必要があると述べた。
- ・マネーアドバイスサービス (MAS) (英国) の Helen White 氏は、英国 MAS は、5 年前に FCA (金融行為規制機構) から独立して英国国民の短期・長期のお金の管理を支援するために設立された公的機関である。FC/IE の効果測定については必ずしも一つの方法が確立しているわけではないため、様々な切り口 (量的・質的、短期・長期など) から図る必要があると述べた。また、FC ストラテジーが効果を発揮したかについて、投資者における次の 5 つの行動 (①クレジット利用の管理、②能動的な貯蓄、③取引記録の保持、④耐性の確立、⑤ゴールに向けた取組み) に改善が見られたかを重視している旨説明した。
- ・チャネル諸島金融オンブズマン (CIFO) の Douglas Melville 氏は、裁判外仲裁機関には、金融取引において自らの期待と結果の間にギャップのあった数多くの投資者の声が蓄積されており、苦情・相談が増加傾向にあるエリアには追加的な投資者教育の余地があるとも考えられるとの意見を示した。

(11) イベントの総括と今後の重要課題

今回のカンファレンスの企画・運営をリードした4機関の代表 (IFIE 議長 Alparslan Budak 氏、IOSCO 事務局長 Paul P. Andrews 氏、OECD/INFE 事務局長 Flore-Anne Messy 氏、ブラジル証券取引委員会 (CVM) 委員長 Leonardo Gomes Pereira 氏) によって、金融教育における今後の国際的な課題について総括的な意見交換が行われた。

今回のグローバルカンファレンスを通じ、専門家の知見を共有することの重要性が改めて認識されるとともに、今後グローバルレベルでの様々な規制改革の導入、金融のデジタルライゼーションの進展、高齢化社会の到来・進行等が投資者教育の必要性にどのような影響を及ぼすかも踏まえつつ、各機関が協調し、環境変化に遅れずに対応していくことの重要性が話し合われた。



注) 今回のカンファレンスで使用された資料は、IFIE ホームページに掲載されている。

URL <http://ifie.org/2016Conference/presentations/>

以上

IFIE/IOSCO 投資家教育国際カンファレンス プログラム
2016年6月13日～14日

6月13日 (1日目)

9:00～10:15 歓迎挨拶
Alparslan Budak, IFIE 会長 Paul P. Andrews, IOSCO 事務局長; IFIE 前会長 İlhami Koç, トルコ資本市場協会(TCMA)会長 Vahdettin Ertaş, トルコ資本市場委員会(CMB)委員長
10:15～12:15 クイックスタート : FC/IE の実施におけるアイデア、トレンド及び最新のトピックス
Miles Larbey, オーストラリア証券投資委員会(ASIC); IOSCO C8 副議長 Khairul Ridzwan Abdul Kuddus, マレーシア証券委員会 Gerri Walsh, 米国金融取引業規制機構(FINRA); FINRA 財団 Robert Stammers, CFA 協会(グローバル) Daniel Pfannemuller, BM&F Bovespa 取引所(ブラジル) 石倉宏一 日本証券業協会執行役
13:45～14:45 パート I - 変化する経済とマーケットダイナミクスにおける FC/IE エコシステム
司会 : Robert Stammers, CFA 協会(グローバル) Leonardo Gomes Pereira, ブラジル証券取引委員会(CVM) Kusumaningtuti Soetiono, インドネシア金融庁(FSA)
14:45～15:45 パート II - 変化する経済とマーケットダイナミクスにおける FC/IE エコシステム
司会 : Attila Köksal, トルコ資本市場協会(TCMA) Daniel Phannemuller, BM&F Bovespa 取引所(ブラジル) Camille Beaudoin, Autorité des marchés financiers (カナダ・ケベック) Noel Maye, FP スタンダードズボード(グローバル)
16:00～17:00 多面的ケーススタディ
Douglas Melville, チャネル諸島金融オンブズマン(CIFO) Sujatha Sekhar Naik, The Securities Industry Dispute Resolution Center (マレーシア)
17:00～18:00 マルチメディア・ショーケース
米 FINRA、スリランカ SEC、CFA 協会(グローバル)、AMF ケベック、イスラエル証券当局、台湾証券取引所、Aflatoun(オランダ)、コロンビア証券当局、トルコ TCMA

6月14日 (2日目)

9:00～10:30 技能・専門性向上ワークショップ - メディアトレーニング
司会 : Robert Stammers, CFA 協会(グローバル) Patrick Yu, FleishmanHillard 香港
10:45～12:00 行動経済学の研究と実践ラウンドテーブル
司会 : Gerri Walsh, 米国金融取引業規制機構(FINRA); FINRA 財団 Jose Alexandre Vasco, ブラジル証券取引委員会(CVM); IOSCO C8 議長 Burak Saltoglu, Bogazici University; Risk Software Technology (トルコ) Olaf Simonse, オランダ財務省; OECD Long-term Savings and Investment 専門家サブグループ共同議長
12:00～13:15 問題解決ワークショップとグループ討議
① 高齢投資者の脆弱性理解及び高齢者保護のベストプラクティス

- ② 新たな Fintech の可能性及び FC/IE 事業への示唆
- ③ FC/IE プログラムのための情報収集・利用のためのシステム開発
- ④ 軍人及びその家族、並びに若年層への関与拡大のためのベストプラクティス等
- ⑤ 持続可能な FC/IE リーダーシップの構築(トラブルシューティングと問題解決)
- ⑥ メディアトレーニングとその実践

14:30～15:30 FC/IE の取組みに対する価値評価・投資効果

Attila Köksal, トルコ資本市場協会(TCMA)

Helen White, マネーアドバイザーサービス(MAS)(英国)

Douglas Melville, チャネル諸島金融オンブズマン(CIFO)

15:45～17:00 イベントの総括と今後の重要課題

司会 : Kathryn Edmundson, IFIE Executive Director

Alparslan Budak, IFIE 会長

Paul P. Andrews, IOSCO 事務局長; IFIE 前会長

Flore-Anne Messy, OECD/INFE 事務局長

Leonardo Gomes Pereira, ブラジル証券取引委員会(CVM)委員長